

府職労公式LINEアカウント
お友達追加してね



府職の友

FUSYOKU NO TOMO

2088号 2019年2月22日

発行所／大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人／有田 洋明 編集人／小松 康則
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

給料
上がるには?

格差の拡大
なぜ?

講義
を聴いて

クイズ
に答え

ワークショップ
で話し合い

国交労連の井上伸さん



今回のつどいでは「なん
で公務員の給料が上がらな
いのか、公務員がバッシン
グされるのか、なんで職員
が減らされるのか、消費税
を引上げるあかんのか」な
どの疑問に答えて、国公労
連(日本国家公務員労働組
合連合会)の井上伸さんに
お話ししていただきました。
さまざまなデータやグラ
フを活用して解説しつつ、
ところどころで三択クイズ
(日本の公務員の総人件費
〈賃金×職員数〉は先進国

その後チームで考えた目
的をもとに、戦略的ゴール
を考え、同志(当事者)や
関係者のマッピング、パワ

講義のあとは、ワークシ
ョップ形式でチームごとに
戦略づくりにチャレンジし
ました。まずは、ペア・ト
ークで講義を聞いて関心を
持ったことや感じたことを
話し合ったのち、チーム全
体で共有し、チームとして
の共有する目的を考えまし
た。

また、2日目の講義で
は、参加者の質問にも答え
つつ、SNS活用の有効性
と必要性についても話して
いただきました。

実践的主体的に深めた

ワークショップで

給料アップと 働きやすい職場をめざすつどい

府職労は2月8日(金)〜9日(土)の2日間、
ホテルセイリユウ(東大阪市)で「給料アップと働
きやすい職場をめざすつどい」を開催しました。つ
どいには全体で80人が参加(うち約半数が女性で、
40歳以下は20人が参加)しました。

チームみんななで学び考えた

1の分析を行い、チームと
子の絵を描いて、チームご
での行動計画をつくり、
ゴールを達成したときの様
子に発表しました。
とても濃厚なスケッチを
立てるワークによって、
学んだ内容をさらに実践的
・主体的に深めることがで
きました。

井上さんの講義を聞いての感想(抜粋)

井上伸さんの三択クイズに答える



広い視野をもつ大切さ分かった

- 税のこと、世界の中の日本
の現状を知ることができ
た。
- (青年) ところどころでも
勉強になりました。なんと
なく知っていたこと、よく
分かっていなかったこと、
全く知らなかったことな
ど、たくさんことを教え
ていただきました。資料も
とても見やすく、フルカラ
ーで資料配布していただ
き、ありがたいお土産もい
ただきました。知りたい人
に見せるなどしていただ
きたいと思います。
- (青年) 消費税のことや教
育のこと、他国のことや
本当のことを知ってびっ
りしました。こういった知
識が広まればいいと思い
ます。
- (若手) デンマークの福祉
国家のすごさがよくわかっ
た。富裕層がもうかる仕組
みになっている実態がよく
わかった。グラフがたくさ
んあり、とても勉強にな
りました。
- (青年) 日本と他の先進国の
社会福祉に大きな違いがあ
ることは知っていたが、想
像以上のものだと感じた。
みんなに知ってもらいたい
と思えました。でもペアト
ークでは「みんなわかって
- (青年) クイズも楽しかった
し、グラフや表、資料がと
ても見やすかったし、わかり
やすかった。日本の社会保障が
いかに悪いかもわかりまし
たし、富裕層の税の優遇も知
れ、とてもよかったです。
- 数字に裏打ちされて説得力が
あって、アベノミクスの正体
がとてわかりやすかった。
SNSの実践もとても参考に
なりました。
- (青年) 富裕層との格差が想
像以上にあった。デンマー
クはなぜ有休消化率が良いの
か知りたくなった。
- (青年) 外国での現状を聞い
て日本は異質なんだというこ
とや市民と共同するにはどう
すればいいかなど広い視野を
持つことの大切さを知ること
ができました。

(2面へつづく)

遊歩道

『ものごと
はね、心で見
なくてはよく
見えない』
これは有名な
星の王子さま
の物語のなか
で出てくるフレーズだ
が、誰もどこか一度
は耳にしたことがあるか
もしれない▼国民の暮らし
し向きを目に見る形と
して評価するための調査
が国の基礎統計だが、そ
の1つである「毎月勤労
統計調査」において、長
期にわたって不正があった
ことが明らかになった▼
生活の実態は多角的に評
価されなければその正確
な状況はつかめない。統
計調査はあくまでもその
一つの側面を把握するた
めのものだが、それが政
策の方向性などに反映さ
れるのならば、正に実態
に即した評価が行われて
いるかを常に意識してこ
そ血の通った「心で見
る」調査となるのではな
いだろうか▼今回の調査
の不正を受け、政府は来
年度予算案の閣議決定を
やり直すという異例の対
応を取ることとなった
が、いま一度、今年の秋
に予定されている消費税
増税をはじめとして、現
実に即した適切な政策が
行われているかを再度見
直すことが必要なので
はないだろうか。数値だけ
では測れない心で見なく
ては見えてこない実態に
こそ目を向けてもらいた
い。

(ウ)